

令和 6 年度

学校評価報告書



越前町立 朝日中学校

<目 次>

スクールプラン	・ ・ ・ ・ ・	1
---------	-----------	---

学校評価年間計画	・ ・ ・ ・ ・	2
----------	-----------	---

評価基準について	・ ・ ・ ・ ・	3
----------	-----------	---

総括表	・ ・ ・ ・ ・	4
-----	-----------	---

具体項目別評価表

確かな学力	・ ・ ・ ・ ・	5
-------	-----------	---

豊かな心	・ ・ ・ ・ ・	7
------	-----------	---

体力及び心身の健康	・ ・ ・ ・ ・	9
-----------	-----------	---

家庭・地域・小学校との連携	・ ・ ・ ・ ・	11
---------------	-----------	----

学校関係者評価書	・ ・ ・ ・ ・	13
----------	-----------	----

資料

生徒生活アンケート結果	・ ・ ・ ・ ・	14
-------------	-----------	----

教職員アンケート結果	・ ・ ・ ・ ・	15
------------	-----------	----

保護者アンケート結果	・ ・ ・ ・ ・	16
------------	-----------	----

令和6年度 越前町立朝日中学校 スクールプラン

- ◇保護者・地域の願い
- ・たくましくやり抜く子
 - ・思いやりのある子
 - ・自己表現できる子
 - ・地域を愛する子

- ◇生徒の実態
- ・素直で礼儀正しい
 - ・物事に熱心に取り組む
 - ・やや積極性に欠ける

【校訓】 「進取」 「精思」 「創造」
 【教育目標】 志高く 思い深く 未来を拓く 生徒の育成

【目指す学校像】

- ・全職員が一体となり、意図的・計画的・組織的に教育活動に取り組む学校
- ・安全で安心な教育環境で、活気と笑顔のある学校
- ・生徒・保護者・地域に信頼される学校

【目指す生徒像】

- ・自ら学び、自ら考える生徒
- ・豊かな心で、自他を尊重し支え合う生徒
- ・心身ともに健康でたくましく活動する生徒



- ◇越前町教育目標
 すべての子どもたちの可能性を引き出す、
 個別最適な学びと協働的な学びの実現
- ◇学校教育方針
 個性と協働が共存する学校教育
 ～個性を発揮し多様な人々と協働しながら課題に取り組む～

- ◇朝日地区小中連携目標
 子どもの育ちをつなげよう
 ～主体・協働の実現～

確かな学力

豊かな心

重点目標

体力及び心身の健康

家庭・地域・小学校との連携

- ◎主体的・協働的な学びの充実
 ・個に応じた学習指導の充実

- ◎自己存在感を感じる活動の充実
 ・自己指導能力の育成

- ◎心の安定を図る、心の変化を見取る取組
 ・健康保持の意識づくりと実践

- ◎地域に根ざした学びの充実と情報発信
 ・小中連携事業の推進

- ・生徒主体の協働探究型プロジェクト学習を研究する。
- ・授業で様々な学びの形態を設定し、生徒の主体的な学びへとつなげる。
- ・授業や家庭学習の中で、個に応じて課題の量や学習方法について配慮し、自己決定の場を設定する。

- ・学級活動や生徒会活動、学校行事を通して、全生徒に役割を与え、互いの活躍を認め合う活動の機会を設ける。
- ・生活チェックリストを日常的に意識する機会を増やし、生徒が日頃の言葉や行動を振り返る場を設ける。

- ・ポジティブ教育、QU、定期的なアンケート及び教育相談の実施やサポートルームの活用により、居心地のよい学級・学校づくりに努めるとともに、生徒の心の状態を把握し、問題の早期解決に努める。
- ・個人状況シートや支援シートを活用して情報の共有を図り、個に応じた支援を行う。
- ・保健や食に関する取組や保健体育の授業を通して、健やかな体づくりの大切さを考えさせ、実践させる。

- ・地域の教育資源を活用した、ふるさと学習を開発・推進し、地域の未来を考え創造しようとする生徒を育成する。
- ・学校教育活動への理解・協力を促進する。(HPによる情報提供・お便りをHome&Schoolで発信など)
- ・小中学校教員間の授業参観と研究協議を実施し、子どもの学ぶ姿を通して、学びのつながりや子どもの育ちを共有する。

- ・「授業に主体的に取り組んでいる」と回答する生徒80%以上
- ・「授業や家庭学習で、自分なりにやり方を考えたり、内容を選択したりすることができた」と回答する生徒80%以上

- ・「自分の役割を果たすことで、集団(学級、学年、学校、地域)に貢献できた」と回答する生徒90%以上
- ・「適切な言葉や行動を、自ら考え、判断し実行することができた」と回答する生徒90%以上

数値目標

- ・「学校は安心して活動に取り組める場所である」と回答する生徒100%
- ・「健康維持と体力向上に努めて学校生活を送ることができた」と回答する生徒90%以上

- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答する生徒80%以上
- ・「学校は、子どもたちの学習活動を適切に伝えている」と回答する保護者90%以上

業務改善のための取組

- ・子どもたちの自主性を育む、手をかけすぎない指導
- ・校務全般におけるDXの推進
- ・新たな挑戦 ― 当たり前の再考 ― 業務の明確化・外部人材活用・外部業務委託の推進・PTAや地域との積極的な連携等

- ・80時間超過勤務者ゼロ
- ・月45時間未満者の割合増

令和6年度 学校評価年間計画

朝日中学校

月	日	曜	内 容
4			○校内評価委員会(各部会) ・重点目標、具体的な取組、数値目標の検討
			○校内評価委員会(全体会) ・重点目標、具体的な取組、数値目標の決定
5	14	火	◇第1回家庭・地域・学校協議会 ・スクールプラン、年間評価計画の説明
	27	月	◇学校参観(授業参観)
7			☆生徒、保護者、教員アンケート実施
			○中間自己評価書の作成
	29	月	○校内評価委員会
8			◇第2回家庭・地域・学校協議会(紙面での報告・中間自己評価報告書の送付)
	23	金	○校内評価委員会(全体会) ・2学期に向けた改善の共通理解
9	10	火	◇学校参観(体育祭)
	11	水	◇学校参観(文化祭)
11	18	月	◇学校参観(授業参観)
12			☆生徒、保護者、教員アンケート実施
			○年間自己評価書の作成
1	6	月	○校内評価委員会
	21	火	◇第3回家庭・地域・学校協議会 ・年間自己評価書の説明、意見交換
2	10	月	◇第4回家庭・地域・学校協議会 ・家庭・地域・学校関係者評価書の説明、意見交換
			○学校評価報告書の作成
	14	金	○教育委員会報告

評価基準について

アンケートの選択肢の基本は、以下の4回答の選択とする。

4(とてもできた) 3(まあまあできた) 2(あまりできなかった) 1(まったくできなかった)

1. 目標の達成状況の評価

(1) 目標が数値化されていない場合

4:4ポイント、3:3ポイント、2:2ポイント、1:1ポイント

4段階	計算値	判断
A	3.2以上	達成されている
B	3.0以上 3.2未満	ほぼ達成されている
C	2.5以上 3.0未満	あまり達成されていない
D	2.5未満	ほとんど達成されていない

(例) 「1が9%、2が15%、3が52%、4が24%の場合」

$(1 \times 9\% + 2 \times 15\% + 3 \times 52\% + 4 \times 24\%) \div 100 = 2.91 \dots \rightarrow$ 評価 C

(2) 目標が数値化されている場合

4段階	カッティングポイント	判断
A	目標値の10割達成	達成されている
B	8割以上10割未満	ほぼ達成されている
C	6割以上8割未満	あまり達成されていない
D	6割未満	ほとんど達成されていない

(例)

目標値が85%の場合	
A	85%以上
B	$85 \times 0.8 = 68\%$ 以上
C	$85 \times 0.6 = 51\%$ 以上
D	51%未満

2. 具体的方策の取組状況の評価 (1の評価方法に準じる。)

4段階	判断
A	とてもよく取組ができています
B	ほぼ取組ができています
C	工夫・改善が望まれる
D	改善が必要である

* 生徒の実態も加味した評価とする。

令和6年度 年間自己評価書

総括表

項目	重点目標	評価結果	具体的取組	評価結果
確かな学力	◎主体的・協働的な学びの充実 ・個に応じた学習指導の充実	A	生徒主体の協働探究型プロジェクト学習を研究する。	A
			授業で様々な学びの形態を設定し、生徒の主体的な学びへとつなげる。	A
			授業や家庭学習の中で、個に応じて課題の量や学習方法について配慮し、自己決定の場を設定する。	A
豊かな心	◎自己存在感を感じる活動の充実 ・自己指導能力の育成	A	学級活動や生徒会活動、学校行事を通して、全生徒に役割を与えるとともに、互いの活躍を認め合う活動の機会を設ける。	A
			生活チェックリストを日常的に意識する機会を増やし、生徒が日頃の言葉や行動を振り返る場を設ける。	A
体力及び心身の健康	◎心の安定を図る、心の変化を見取る取組 ・健康保持の意識づくりと実践	A	ポジティブ教育、Q U、定期的なアンケート及び教育相談の実施やサポートルームの活用により、居心地のよい学級・学校づくりに努めるとともに、生徒の心の状態を把握し、問題の早期解決に努める。	B
			個人状況シートや支援シートを活用して情報の共有を図り、個に応じた支援を行う。	A
			保健や食に関する取組や保健体育の授業を通して、健やかな体づくりの大切さを考えさせ、実践させる。	A
家庭・地域・小学校との連携	◎地域に根ざした学びの充実と情報発信 ・小中連携事業の推進	A	地域の教育資源を活用した、ふるさと学習を開発・推進し、地域の未来を考え創造しようとする生徒を育成する。	B
			学校教育活動への理解・協力を促進する。 (HPによる情報提供・お便りをHome&Schoolで発信など)	A
			小中学校教員間の授業参観と研究協議を実施し、子どもの学ぶ姿を通して、学びのつながりや子どもの育ちを共有する。	A

具体項目別評価表

具体項目	確かな学力
------	-------

重点目標	評価
主体的・協働的な学びの充実・個に応じた学習指導の充実	A

具体的取組	具体的取組の取組状況	評価
・生徒主体の協働探究型プロジェクト学習を研究する。	・生徒主体の協働探究型プロジェクト学習を研究することができたと評価した教員は100%（Ptは3.41）であった。	A
・授業で様々な学びの形態を設定し、生徒の主体的な学びへとつなげる。	・「授業に主体的に取り組みましたか」について、肯定的に評価した生徒は93.5%であった。 ・授業で様々な学びの形態を設定し、生徒の主体的な学びへとつなげることができたと評価した教員は100%（Ptは3.35）であった。	A
・授業や家庭学習の中で、個に応じて課題の量や学習方法について配慮し、自己決定の場を設定する。	・「授業や家庭学習で、自分なりにやり方を考えたり、内容を選択したりすることができましたか」について、肯定的に評価した生徒は90.3%であった。 ・授業や家庭学習の中で、個に応じて課題の量や学習方法について配慮し、自己決定の場を設定したと評価した教員は100%（Ptは3.32）であった。	A

総括
重点目標1「主体的・協働的な学びの充実」については概ね達成できた。 ○協働探究型プロジェクト学習について、定期的に教科会を開いたり現職教育で実践内容を発表したりすることを通して研究を進めることができた。 ○各教科で学びの形態を工夫したりICTを効果的に活用したりすることで、生徒が協働して課題に取り組む姿が見られた。 △ICTの活用に関しては、まだまだ教員間で差があり、定期的な情報交換の必要性を感じる。 重点目標2「個に応じた学習指導の充実」については概ね達成できた。 ○スタディサプリを導入したことで、予習・復習など生徒の個に応じた学習の機会を提供することができた。 ○提出期限にゆとりをもたせるなど、宿題を自分のペースで進められるようにしたので、計画的に宿題をする生徒が増えた。 △個に応じて課題の量を配慮したものの、自分なりの学習方法が身についていない生徒もいる。 △長期休暇の宿題をスタディサプリに変えたことで、学習の定着について保護者から不安の声も上がった。
改善策
・協働探究型プロジェクト学習の推進に向けて、積極的に他校の実践を見たり、教科の枠を越えて授業参観をしたりすることで理解を深める。 ・ICT活用に関して研修会や情報交換会を行うことで、効果的な活用方法について知る機会を設ける。 ・選択学習の具体例を示したり全校学習会の基礎講座を開いたりなど、個に応じた支援を継続することで、生徒が自分の学習方法を見つけることを目指す。

「確かな学力」 についての実践

1 主体的・協働的な学びの充実

主体的・協働的な学びの充実のために、生徒主体の協働探究型プロジェクト学習の研究を推進した。各教科で単元を貫く学習課題の設定、主体的な学びを生み出す学習形態の工夫などを意識した授業づくりに取り組んだ。また、2学期末には教員間で教科の枠を越えて授業での取組内容について共有し、協議する場を設定することで、研究を深めることができた。

生徒の主体的な学びにつなげるために、各教科の授業の中で個人、ペア、グループなど学びの形態を提供し、生徒に自己決定させる場を設定した。生徒は課題に応じて自分に合った学習形態を選ぶことができ、意欲的に学習に取り組む様子が見られた。



＜動物を分類するクイズを出し合う（理科）＞



＜学びの形態の工夫（数学科）＞

2 個に応じた学習指導の充実

タブレットを使った学習アプリの「スタディサプリ」を導入した。欠席した日に進んだ部分について動画で学ぶ生徒や、授業でつまづいた部分を復習する生徒など、個に応じて必要なことを自ら考え、様々な形で学ぶ姿が見て取れた。長期休業の際には定期的に課題を配信することで、生徒は学びを止めることなく、学習に向き合うことができた。

生徒の学力向上を図るために、月に1回全校学習会を開いた。自習、習熟度に応じた授業、教え合いや質問会など、多様な学びの場を設定し、生徒に事前にアンケート調査で希望をとることによって学びの形態を自己決定させた。その結果、各教室では生徒一人一人が目標をもって主体的に学習に取り組む姿が見られた。



＜習熟度に応じた授業（理科）＞



＜教え合い・質問会（英語科）＞

具体項目別評価表

具体項目	豊かな心
------	------

重点目標	評価
自己存在感を感じる活動の充実・自己指導能力の育成	A

具体的取組	具体的取組の取組状況	評価
・学級活動や生徒会活動、学校行事を通して、全生徒に役割を与え、互いの活躍を認め合う活動の機会を設ける。	「自分の役割を果たすことで、集団（学級、学年、学校、地域）に貢献できましたか」について肯定的に評価した生徒は92.5%であった。 - 学級活動や生徒会活動、学校行事を通して、全生徒に役割を与え、互いの活躍を認め合う活動の機会を設けたと評価した教員は100%（Ptは3.56）であった。	A
・生活チェックリストを日常的に意識する機会を増やし、生徒が日頃の言葉や行動を振り返る場を設ける。	「適切な言葉や行動を、自ら考え、判断し実行することができましたか」について肯定的に評価した生徒は91.4%であった。 - 生活チェックリストを日常的に意識する機会を増やし、生徒が日頃の言葉や行動を振り返る場を設けたと評価した教員は93.7%（Ptは3.44）であった。	A

総括
重点目標1「自己存在感を感じる活動の充実」については概ね達成することができた。 ○昨年同様、学校祭や校外研修、小中交流会などで、生徒たちが企画・運営の段階から活動に参画する機会を多く設け、より生徒主体の活動になるよう働きかけることができた。 ○各活動後にお礼のメッセージを交換し合うなど、互いを認め合う機会をたくさん設けることができた。 重点目標2「自己指導能力の育成」については概ね達成することができた。 ○生活チェックリストの重点項目を毎日学級で選択し、提示・振り返りの場を設定することで、生徒たちが適切な言動や態度を意識する機会を増やすことができた。 △多くの生徒が「適切な言葉や行動を、自ら考え、判断し実行することができた」と回答しているが、SNSトラブルや生徒間トラブルが時々起きるなど教員が求める姿に達していないと感じる。
改善策
「自己存在感を感じる活動の充実」に関して - 今後はさらに生徒たちが企画・運営の段階から活動に参画する機会を設ける。 「自己指導能力の育成」に関して - 今後も生活チェックリストの重点項目を毎日学級で選択し、提示・振り返りの場を設ける。 - 生徒の自己評価と教員の評価とのずれをなくしていくための案を検討して、自己指導能力向上を図っていく。

「豊かな心」についての実践

1 自己存在感を感じる活動の充実

(1) 学校祭クラス別企画

学校祭のクラス別企画では、全クラスがそれぞれ1つの企画を担当した。当日は校区の小学6年生を迎えるということで、小学生でも興味を持ち楽しめる企画になるよう工夫した。小学生が楽しんだり喜んだりしている様子を見て充実感を得ることができた。また、小学生からお礼のメッセージが届いたり、共に活動した学級内外のメンバーとメッセージの交換を行ったりしたことで、自己存在感を感じる活動となった。



〈1年生クラス企画準備〉



〈3年生クラス企画当日〉



〈小学生からのメッセージ〉

(2) 校外研修 生徒主体による企画・運営

1年生は三国班別研修を行い、実行委員が校外学習の出発式・解散式の司会進行などの企画運営を行った。班活動では一人一人が役割をもって活動し、三国町の魅力に迫ることができた。

2年生は石川県金沢市で班別研修を行った。実行委員が校外学習のルール作りやおすすめスポットを考え、活動の企画運営を行った。

3年生は石川県金沢市で校外研修を行った。実行委員が校外研修の学年のルール作り、またクラス別に行き先・活動の企画運営を行った。班別にインタビュー活動も行った。



〈1年生実行委員による解散式〉 〈2年生実行委員によるルール発表〉 〈3年生金沢でのインタビュー〉

2 自己指導能力の育成

(1) 生徒による重点目標の設定、振り返り

毎月末には生活チェックリストを用いて、「時と場合に応じた正しい態度や言葉遣い、あいさつや返事ができた」「情報機器（タブレットなど）を適切に使うことができた」など自己の振り返りを行った。

毎朝級長がその日の重点目標をホワイトボードに記入し朝の会で伝え、帰りの会では取組に対しての評価を行った。



〈朝の会重点目標の提示〉



〈帰りの会重点目標の振り返り〉



〈毎月の生活チェックリスト〉

具体項目別評価表

具体項目	体力及び心身の健康
------	-----------

重点目標	評 価
心の安定を図る、心の変化を見取る取組・健康保持の意識づくりと実践	A

具体的取組	具体的取組の取組状況	評 価
・ ポジティブ教育、ＱＵ、定期的なアンケート及び教育相談の実施やサポートルームの活用により、居心地のよい学級・学校づくりに努めるとともに、生徒の心の状態を把握し、問題の早期解決に努める。	・ 「学校は安心して活動に取り組める場所であると思いますか」について、肯定的に評価した生徒は88.7%であった。 ・ ポジティブ教育、ＱＵ、定期的なアンケート及び教育相談の実施やサポートルームの活用により、居心地のよい学級・学校づくりに努めるとともに、生徒の心の状態を把握し、問題の早期解決に努めたと評価した教員は100%（Ptは3.65）であった。	B
・ 個人状況シートや支援シートを活用して情報の共有を図り、個に応じた支援を行う。	・ 個人状況シートや支援シートを活用して情報の共有を図り、個に応じた支援を行ったと評価した教員は100%（Ptは3.78）であった。	A
・ 保健や食に関する取組や保健体育の授業を通して、健やかな体づくりの大切さを考えさせ、実践させる。	・ 「健康保持と体力向上に努めて学校生活を送ることができましたか」について、肯定的に評価をした生徒は90.8%であった。 ・ 保健や食に関する取組や保健体育の授業を通して、健やかな体づくりの大切さを考えさせ、その実践に努めたと評価した教員は94.4%（Ptは3.33）であった。	A

総 括
重点目標１「心の安定を図る、心の変化を見取る取組」については、概ね達成できた。 ○各種アンケート（定期的に実施する物や機会を捉えて実施する物）、教育相談およびポジティブ教育を実施することにより、より良い人間関係、居心地の良い学級づくりや問題の早期解決に努めることができた。また、サポートルームの機能を充実させることにより、学校生活に不安を抱える生徒が前向きに登校し、学習に取り組めるようになってきた。 △全校のうち、約１割の生徒が学校生活にやや不安を感じている。また、中間報告と比較し、3.8ポイント数字が低下した。友人関係や学業や学級の雰囲気等に不安を抱えている生徒が少なくないと考えられる。 重点目標２「健康保持の意識づくりと実践」については、概ね達成できた。 ○保健においては、発育測定や各検診によって自己の健康状況を意識させるとともに、保健だよりによって各時期に合わせた健康情報を提供することができた。また、食においては、栄養教諭による「食育」の授業や放送委員による日々の給食に関する話などで、食と栄養に関する情報を提供することができた。 △6.5%の生徒が、健康保持と体力向上に対してあまり意識できていないと答えている。熱中症対策に対する意識の低さ、食べ物の好き嫌い、睡眠不足による体調不良等が考えられる。
改 善 策
・ 生徒の様子や表情を日頃からよく観察し、問題点の未然防止や早期発見、早期解決に努める。場合によってはスクールカウンセラーとの面談も勧めていく。また、気がかりな生徒については、早めに対応を相談できるよう、ケース会議の実施を呼びかける。 ・ 健康については、今後も夏季の酷暑や年間を通しての感染症に対する対策が必要になることが予想される。こまめに指導を続けていくだけでなく、委員会等を通じて生徒自身から発信し、呼びかけていくことも重視していく。

「体力及び心身の健康」についての実践

1 心の安定を図る、心の変化を見取る取組

○サポートルームの設置・運営

昨年度は相談室が1室、支援員が1名という体制だったが、今年度はサポートルームとして3部屋（従来の相談室、カウンセリング室、小会議室）に支援員が2名という体制になった。さらに、サポートルームの運営や教育相談を総括する役割の教諭1名が教育相談コーディネーターとして配置された。

サポートルームが3部屋あることによって、生徒の個性に合わせ、生徒が安心して過ごせる場を準備することができるようになった。主に次の3つの方法で使うことができた。

①学年毎に使用する方法。②話をしながら協力して学習したい生徒と静かにリモートでの授業や自習を行いたい生徒に分ける方法。③他の生徒と関わりを持つことが苦手な生徒が1人で使用する方法。

また、教育相談コーディネーターという役割の教諭がいることによって、サポートルームの生徒、支援員、担任、スクールカウンセラーとの連絡・調整を一本化することができ、スムーズにまた確実に必要事項を伝達することができるようになった。また場合によっては教育相談コーディネーターが直接保護者との連絡・調整を行うことによって、多忙化している担任の一助ともなった。



＜サポートルーム1＞



＜サポートルーム2＞

2 健康保持の意識づくりと実践

- (1) 学年毎に栄養教諭による食育の授業を行った。1学年は「運動と栄養」、2学年は「考えよう！健康長寿福井の秘密」、3学年は「受験期の食生活」というテーマで学習した。それぞれの生徒がワークシートで自分の食生活を振り返り、健全な食生活について理解を深める機会となった。
- (2) 9月に入ってから、たいへん暑い日が続いたため、体育祭において次のような熱中症対策を実施した。①開会式・閉会式はテントの中で、いすに座って実施した。②午前の競技の中間に、冷房をかけた教室で15分間の給水タイムを設けた。③昼食の時に冷やした500mlの麦茶を全員に1本ずつ渡した。これらの対策や職員がこまめに給水すること呼びかけたため、体調を崩す生徒はほとんどいなかった。
- (3) 体育委員会では、冬期休業中の運動不足解消のため、「冬休み体力づくりカード」を制作し、全生徒に配布した。6種類の基本的な運動を紹介し、カレンダー型の表に実施できたかを記入した。
- (4) 保健委員会では、健康保持の意識向上のため、睡眠や朝食、清潔などに関する「健康すごろく」を作り、全生徒に配布し取り組ませた。また、適切なメディア利用時間や熱中症予防を呼びかける標語やポスターを制作し、各学級に掲示した。

具体項目別評価表

具体項目	家庭・地域・小学校との連携
------	---------------

重点目標	評価
地域に根ざした学びの充実と情報発信・小中連携事業の推進	A

具体的取組	具体的取組の取組状況	評価
・地域の教育資源を活用した、ふるさと学習を開発・推進し、地域の未来を考え創造しようとする生徒を育成する。	・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」について肯定的に評価した生徒は86.5%であった。 ・地域の教育資源を活用した、ふるさと学習を開発・推進し、地域の未来を考え創造しようとする生徒を育成に努めたと評価した教員は88.2% (Ptは3.06) であった。	B
・学校教育活動への理解・協力を促進する。(HPによる情報提供・お便りをHome&Schoolで発信など)	・「学校は、子どもたちの学習活動を適切に伝えている」と肯定的に評価した保護者は93%であった。 ・学校教育活動への理解・協力を促進に努めた(HPによる情報提供・お便りをHome&Schoolで発信など)と評価した教員は100% (Ptは3.5) であった。	A
・小中学校教員間の授業参観と研究協議を実施し、子どもの学ぶ姿を通して、学びのつながりや子どもの育ちを共有する。	・小中学校教員間の授業参観と研究協議を実施し、子どもの学ぶ姿を通して、学びのつながりや子どもの育ちを共有する機会を持ったと評価した教員は100% (Ptは3.5) であった。	A

総括
重点目標1「地域に根ざした学びの充実と情報発信」については、概ね達成できた。 ○生徒アンケート「地域や社会をよくするために何かしてみたい」の肯定的回答割合86.5%は、全国平均値76.1%と比較して10.4Pt高い。地域社会に関心をもち、機会があれば貢献してみたいと考える生徒が多いことが分かった。朝日地域コミュニティ運営委員会(e-とこ朝日)事業である古墳公園の草刈りや清掃ボランティアへの参加及びPTA資源回収への協力的な様子など、地域住民や保護者とともに活動することが、意識向上の一因と考えられる。 △教職員のふるさと教育推進意識は、中間評価では63.1%と低い傾向にあったが、2学期以降「総合的な学習の時間」を軸として各学年で推進を図り、88.2%と改善傾向にある。地域の豊かな環境や人材、施設、関連団体等を学びの構想に取り入れ、地域社会と協働的に学習を深めていくことが大切である。 ○学校の情報発信における肯定的回答割合は、教員・保護者ともに高い。ホームページおよび学校・学年だよりや保護者向け情報発信ツール「C4th Home&School」を活用して、積極的に情報発信するよう努めている。 重点目標2「小中連携事業の推進」については、概ね達成できた。 ○本年度は5年ぶりに、朝日地区小中学校の全教職員が集まって、総会・分科会・小中相互の授業参観・合同授業研究会・児童生徒の交流会などを開催することができた。コロナ禍で事業実施が見送られていたが、本年度は研究テーマや事業の進め方などについて共通理解を図り、組織が動き出したことが大きな収穫である。 △小中連携事業再開にあたり、教職員間での打合せ時間の確保や時間割調整などが課題である。
改善策
・「総合的な学習の時間」の年間計画を見直し、ふるさと教育を具体的に位置付け、外部機関と積極的に連携を図る。 ・ホームページによる情報提供や、Home&Schoolを活用した情報発信を継続していく。また、発信する内容も、常に工夫改善していくようにする。 ・小中連携事業では、朝日地区の児童生徒に身に付けたい資質・能力を意識しながら、授業研究を推進していく。また、4部会(授業づくり・交流・はぐくみ・ポジティブ教育)のチーフとなる教員がコーディネーターとして、役割分担を柔軟に見直しながら、連携事業に係る各個人の業務負担軽減に努める。

「家庭・地域・小学校との連携」についての実践

1 地域に根ざした学びの充実と情報発信

(1) ふるさと学習の推進

ふるさとへの愛着と誇りをもち、朝日地区の未来を考え、創造しようとする生徒の育成を図ろうと、本年度はスクールプランに「地域に根ざした学びの充実」を組み入れた。第3学年では総合的な学習の時間に、「越前町の活性化プラン」を「自然」「食」「観光」「歴史・伝統工芸」の視点で調査・探究活動が続けている。

また、3年間でふるさと学習が系統的につながっていくよう、全体計画や年間指導計画について検討する教職員プロジェクトチームを立ち上げ、本年度中に整理したものを立案する予定である。

令和6年度 第3学年探究活動グループ表		
	班	探究テーマ
自然	1	シールラリーを通して越前町の自然について知ってもらう
	2	プラントピアの魅力(バードウォッチング)を伝えるパンフレット作製
	3	セイタカアワダチソウを取り除いて入浴剤にして景観をよくして心身ともによくなって一石四鳥
食	1	いろは軒の魅力を伝えよう！
	2	越前町の美味しいもののマップをつくろう
	3	越前町の特産物の知名度を上げよう
	4	朝日みそを使ったレシピ作り

＜第3学年総合「越前町の活性化プラン」テーマ例＞

(2) 学校教育活動への理解・協力を促進する情報発信

前年度の保護者アンケートの中で、「学校の様子がよく分からない。」「Home&Schoolをもっと活用して、学校の様子や情報を知らせてほしい。」という感想や意見をいただいた。

本年度は、学校全体や各学年および部活動等で行われた教育活動について、なるべくタイムリーに、保護者にお知らせすることに努め、2学期末(33週)までに、Home&School「校長先生からの言葉」を43回発信し、学校教育活動への理解を促した。

今年度の保護者アンケートでは、「写真付きで学校の様子がよく分かり、ありがたい。」「(親子の)会話のきっかけになる。」という感想をいただいた。年度末まで週1回くらいの頻度で、情報発信を継続していく。

保護者アンケートでは「個々の様子を家庭に返していただけると、学校と家庭が共通理解しながら連携していける。」という意見をいただいた。必要に応じて個別に情報を提供し、連携・協力体制を強化していきたい。



＜Home&School「校長先生からの言葉」＞

2 小中連携事業の推進

令和6年5月30日(木)に、5年ぶりに朝日地区の小中学校全教職員が集まって総会・分科会を開催し、研究テーマ「子どもの育ちをつなげよう～主体・協働の実現～」の共通理解を図り、今年度の事業計画を確認した。

当初の計画どおり、小中相互の授業参観・合同研究会を実施したが、小6児童と中1生徒の交流会を2回開催したり、中2生徒が朝日小4年児童の発表会リハーサルに参加して助言したりと、連携事業に広がりが見られた。



＜朝日地区小中連携 授業参観(朝日中家庭科)＞



＜朝日小学習交流発表会リハーサルに中2生徒が参加＞

令和6年度 学校関係者評価書

朝日中学校学校関係者評価委員会

確かな学力	今年の重点目標を「主体的・協働的な学びの充実」・「個に応じた学習指導の充実」とされ、具体的には「主体的・協働的な学びの充実」では、生徒主体の協働探究型プロジェクト学習の研究や授業では、様々な学びの形態を設定され、授業参観で拝見した中では学習形態の工夫が見受けられ、生徒たちへ協働する場を設けられていたことが印象的でした。 また、特筆すべきは生徒への主体的な学びにつなげるために授業の中で個人・ペア・グループ等学びの形態を提供し、自己決定させる場を設けられ、生徒が意欲的に取り組む様子が見受けられました。 「個に応じた学習指導の充実」では、スタディサプリの導入により欠席や授業でわからない時など個に応じて必要なことを自ら考えることができる環境を整えられ生徒の学力向上では月に1回全校学習会を開かれるなど習熟度に応じた授業や教え合い、質問会など多様な学びの場を設定されました。 評価は、すべてA評価であり生徒さんのアンケートでは肯定的な評価が9割程度とありますが、自分なりの学習方法が身につかない生徒さんや、またスタディサプリ使用に伴う保護者の不安などに対し、改善策を図られますようお願いいたします。
豊かな心	今年の重点目標を「自己存在感を感じる活動の充実」・「自己指導能力の育成」とされ、具体的には「自己存在感を感じる活動の充実」では学校祭においてクラス別に企画したり校外研修では、実行委員による研修のルール作りや行き先・活動の企画運営や研修先でのインタビュー活動を行い自己存在感を感じる活動を実践されました。 「自己指導能力の育成」では毎月末に生徒による生活チェックリストにより、時と場合に応じた正しい態度と言葉遣い、あいさつや返事ができたなど自己の振り返りを行い、毎朝級長がその日の重点目標を朝の会で伝え帰りの会で評価を行うなど自己指導能力の育成を実践されています。 評価はすべてA評価であり生活チェックリストの活用など評価したいと思います。このような活動はたいへん地道な作業であります将来社会生活を送るうえで大事なことでと考えていますので引き続きお願いいたします。 今後はさらに自己存在感を感じる活動の充実を進めていただきますとともに、総括に記載のSNSでのトラブルや生徒間のトラブルなど、インターネットを利用した問題が多数見受けられますので、専門の方にアドバイスをいただきながら適切な対応を図られますようお願いいたします。
体力及び心身の健康	今年の重点目標を「心の安定を図る、心の変化を見取る取り組み、健康保持の意識づくり」とされ具体的には、サポートルーム3部屋、支援員2名、総括する教諭1名を教育相談コーディネーターとして配置され、3部屋を生徒の個性に合わせ過ごせる場を準備され、学校生活に不安のある生徒が前向きに登校し学習に取り組むことができていることや教育相談コーディネーターが配置されたことにより担任、スクールカウンセラー、支援員との連携が一本化され担任の負担も軽減されました。 また、「健康保持の意識づくりと実践」では、保健だよりによる定期的な健康情報の発信や栄養教諭による食育の授業、体育委員会での「冬休み体力づくりカード」の制作により冬期間の運動不足解消や保健委員会での健康保持の意識向上のための「健康すごろく」作成などきめこまかな作業を実践されました。評価は、おおむねA評価ですが気になるのが「学校は安心して活動に取り組める場所であると思いますか」の問いに対し生徒の肯定的な評価が88%、保護者のアンケートの6番の問いでも87%と高水準ですが逆に約1割の方があまり思わないまたは思わない、わからないとなっておりますので、この点につきましては問題があるのであれば解決されますようお願いいたします。 評価表の改善策の欄では、気がかりな生徒さんの対応につきまして大変ご苦労されておられることが拝察されます。スクールカウンセラーの方との面談など早めの対応をお願いいたします。
家庭・地域・小学校との連携	今年の重点目標を「地域に根ざした学びの充実と情報発信・小中連携事業の推進」とされ、具体的には、ふるさと学習の推進では、ふるさとへの愛着と誇りをもち未来を考え創造しようとする生徒の育成を図るため本年度はスクールプランに組み入れられ、3年生の授業では越前町の活性化プランを調査探究活動を行われました。また、学校教育活動の理解を得るためHPによる情報提供・お便りをHome & Schoolで発信されています。小中連携事業の推進では今年度5年ぶりに小中学校全職員が集まり総会・分科会を開催し事業計画を作成し、小中相互の授業参観や小6児童と中1生徒の交流を2回開催される等連携事業の広がりを見せられました。 評価はA評価であり、この項目は家庭と地域との連携が目標とされており、特に地域や社会をよくするために何かにしたいと評価した生徒が86.5%であったことや保護者の学校は子供たちの学習活動を適切に伝えているとの評価が93%となったところは常日頃の教員の皆様の努力として評価したい。 評価内容ではありませんが、この項目で少し危惧いたしますのは、総括にもありますように地域住民や保護者とともに活動することは確かに意識向上の一因となっておりますが、しかしこの手の話は、ここまでで終わりというものがありせん。したがって教員の皆様には、たいへん負担となっております本来のお仕事に支障が出ているのではないかと心配しております。この問題は社会全体の問題であるとわたくしもPTA役員の時の経験からそう思っておりますが、今後さまざまな事業を進めるにあたりましてスクラップアンドビルドという言葉のとおり、教職員の勤務時間にも配慮し、時には事業の見直しや廃止も検討してください。この点は、PTAの役員さんや学校長にお願いしておきます。
学校全般	年度末を迎えられ、大変お忙しい時期でございますが、今年1年教職員の皆様には、学校活動にご尽力いただき、末筆ながら評価委員を代表し心から敬意と感謝を述べさせていただきます。ありがとうございました。今回の評価書につきましては、4つの重点項目につきまして令和6年度の自己評価書と学校行事に参加させていただいた体験をもとに評価をさせていただきました。それぞれの重点項目につきましてはすべてA評価であることを確認いたしました。それぞれの項目につきましては、記載のとおりでございますが、特に総括内容や改善策につきましては問題点や具体的な改善策を詳細にまとめられておられ、教職員の皆様や学校関係者相互が情報共有され、来年度に向けての活動に大変参考になるいい評価書であると考えております。 最後に教員の皆様には引き続きスクールプランの掲げる自ら学び、自ら考える生徒・豊かな心で、自他を尊重し支え合う生徒・心身ともに健康でたくましく活動する生徒づくりに邁進され、ここ朝日地区から将来、力強く生きる人間を育てていただきますようお願いいたします。

R6 年間 生徒アンケート結果 (%)

4 : とてもよくできた 3 : まあまあできた 2 : あまりできなかった 1 : まったくできなかった

		4	3	2	1	%	評価
Q1	授業に主体的に取り組みましたか。	44.6	48.9	4.3	2.2	93.5	A
Q2	授業や家庭学習で、自分なりにやり方を考えたり、内容を選択したりすることができましたか。	47.3	43	7.5	2.2	90.3	A
Q3	自分の役割を果たすことで、集団（学級、学年、学校、地域）に貢献できましたか。	51.6	40.9	2.7	4.8	92.5	A
Q4	適切な言葉や行動を、自ら考え、判断し実行することができましたか。	54.8	36.6	7	1.6	91.4	A
Q5	学校は安心して活動に取り組める場所であると思いますか。	53.2	35.5	8.6	2.7	88.7	B
Q6	健康保持と体力向上に努めて学校生活を送ることができましたか。	64.5	26.3	6.5	2.7	90.8	A
Q7	地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思いますか。	39.2	47.3	11.3	2.2	86.5	A

4段階	計算値
A	目標値の10割達成
B	8割以上10割未満
C	6割以上8割未満
D	6割未満

R6 年間 教師用具体的取組アンケート結果 (%)

4 : とてもよくできた 3 : まあまあできた 2 : あまりできなかった 1 : まったくできなかった

		4	3	2	1	Pt	評価
Q1	生徒主体の協働探究型プロジェクト学習を研究することができましたか。	41.2	58.8	0	0	3.41	A
Q2	授業で様々な学びの形態を設定し、生徒の主体的な学びへとつなげることができましたか。	35.3	64.7	0	0	3.35	A
Q3	授業や家庭学習の中で、個に応じて課題の量や学習方法について配慮し、自己決定の場を設定しましたか。	31.3	68.7	0	0	3.32	A
Q4	学級活動や生徒会活動、学校行事を通して、全生徒に役割を与えるとともに、互いの活躍を認め合う活動の機会を設けましたか。	55.6	44.4	0	0	3.56	A
Q5	生活チェックリストを日常的に意識する機会を増やし、生徒が日頃の言葉や行動を振り返る場を設けましたか。	50	43.7	6.3	0	3.44	A
Q6	ポジティブ教育、Q U、定期的なアンケート及び教育相談の実施やサポートルームの活用により、居心地のよい学級・学校づくりに努めるとともに、生徒の心の状態を把握し、問題の早期解決に努めましたか。	64.7	35.3	0	0	3.65	A
Q7	個人状況シートや支援シートを活用して情報の共有を図り、個に応じた支援を行いましたか。	77.8	22.2	0	0	3.78	A
Q8	保健や食に関する取組や保健体育の授業を通して、健やかな体づくりの大切さを考えさせ、その実践に努めましたか。	44.4	50	0	5.6	3.33	A
Q9	地域の教育資源を活用した、ふるさと学習を開発・推進し、地域の未来を考え創造しようとする生徒の育成に努めましたか。	23.5	64.7	5.9	5.9	3.06	B
Q10	学校教育活動への理解・協力の促進に努めましたか。 (HPによる情報提供・お便りをHome&Schoolで発信など)	50	50	0	0	3.5	A
Q11	小中学校教員間の授業参観と研究協議を実施し、子どもの学ぶ姿を通して、学びのつながりや子どもの育ちを共有する機会を持ちましたか。	50	50	0	0	3.5	A

4段階	計算値
A	3.2以上
B	3.0以上 3.2未満
C	2.5以上 3.0未満
D	2.5未満

(例)
1が9%、2が15%、3が52%、4が24%の場合
 $(1 \times 9 + 2 \times 15 + 3 \times 52 + 4 \times 24) \div 100 = 2.91$
 2.91は2.5以上3.0未満なので**評価C**

R6 保護者アンケート結果 (%)

4 : そう思う 3 : ややそう思う 2 : あまり思わない 1 : 思わない 0 : 分からない

	項目	4	3	2	1	0	評価
Q1	学校は、子どもたちの学習活動の様子を、Home&SchoolアプリやHP等で適切に伝えている。	55	38	5	1	1	A
Q2	学校は、お子さんについて、保護者と連絡を取り、適切に対応している。	46	43	9	1	1	
Q3	お子さんは、主体的に家庭学習に取り組んでいる。	17	37	32	13	1	
Q4	お子さんは、基本的生活習慣が身についている。	24	52	16	7	1	
Q5	お子さんは、健康に気をつけて生活している。	23	60	14	3	0	
Q6	学校は、お子さんにとって安心して活動に取り組める場所である。	39	48	8	2	3	
Q7	お子さんは、学級や部活動で交友関係に悩まずに生活を送っている。	39	40	11	6	4	